[目次]

- 1. あばた不良についての調査
- 2. ピンホール不良についての調査
- 3. まとめ

FCDの生型砂に関わる 不良形態と改善事例

> 福島製鋼株式会社 高橋直之 平成30年7月21日

§福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

3/28

§福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

4/28

ダクタイル製品の、生型砂に関わる不良について、 その形態毎に調査と改善を実施した。

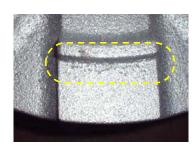
- ・あばた不良
- ・ピンホール不良

あばた不良について

あばた不良発生品について

【ハブ】





フランジの部分の砂型が角になる箇所にあばた状欠陥が発生

あばた不良の発生についての仮説

当社では多数個込めの推進、歩留りの向上の観点から、押湯保温材多用している。

この保温材が完全燃焼しない場合に、保温材中に含まれる金属AIが回収砂に残留し、溶湯と反応することにより、あばた不良の原因となっていると推測した。

砂性状

🧣 福島製鋼株式会社

			MB					和度分布 (%, 下段()内単位:μm) 激粉									粒度				
	TC	AC	吸着量	AC/TC	Ig-loss	炭素質	金属分	微粉	チックス	クォーツ	残存率	26 mesh	36 mesh	50 mesh	70 mesh	100 mesh	140 mesh	200 mesh	280 mesh	pan	指数
	(%)	(%)	(mI/5g)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(600)	(425)	(300)	(212)	(150)	(106)	(75)	(53)		(AFS)
回収砂	12.4	7.7	36	62.1	5.29	4.9	2.1	2.4	17.7	65.1	0.41	3.9	11.9	25.5	29.9	11.5	2.8	0.9	0.7	0.5	50.8
ダスト	22.4	16.4	77	73.2	15.40	14.6	6.4	1.3	29.8	31.5	_	0.4	0.1	1.1	8.6	23.2	17.9	12.6	7.6	6.1	116.1

[「]金属分に含まれる金属AIも残留している

§福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

7/28

検証

~金属AI分の添加に伴うあばた発生調査の実施~

粉末状保温材添加した生型砂を混練し、生砂中に含まれる金属AIの量によりあばた不良の発生を調査した

粉末状保温材成分

(%)

M-Al	Al2O3	SiO2	他		
23	12	33	32		

配合

合 (%)

№	1	2	3	4	5	6	7
保温材 添加率	0.1	0.2	0.25	0.5	1	5	10

§ 福島製鋼株式会社

FUNDSTIMA STEEL WORKS COLUMN

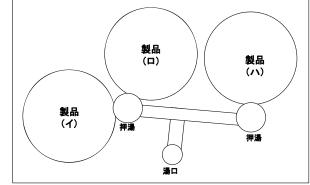
TO THE PROPERTY OF THE PROPERT

日本鋳造工学会 生型研究部会

8/28

調査方法

試験品型配置と込数



欠点数カウント位置



- ・3ケ込めの実機にて鋳込み試験を実施
- ・1製品当たり最大10ヶ所の欠点数で判定

実験製品の判定

N	<u> </u>	1	2	3	0.5		
発熱添加	根材 口率	0.1	0.2	0.25			
製	品	70			020		
型番	1	0	0	0	1		
型番毎欠点数	П	0	0	2	1		
点数	ハ	0	0	1	1		

実験製品の判定

🧣 福島製鋼株式会社

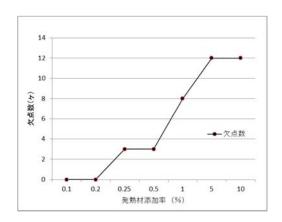
N	<u>(ō</u>	5	6	7 10			
発 添力	热材 心率	1	5				
製	品	J me					
型番	1	2	3	3			
型番毎欠点数	П	4	5	5			
点数	/	2	4	4			

§ 福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

11/28

粉末状発熱材添加率毎の欠陥数

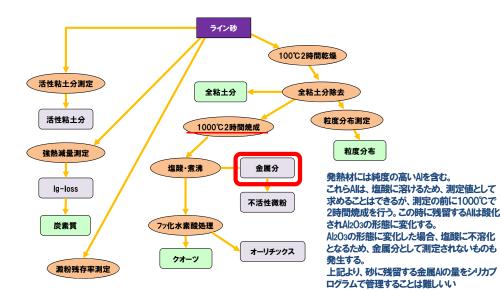


ライン砂に粉末状発熱材を0.1%~10%まで 7水準で添加した製品での確認鋳込みの結果、0.25%以上添加したものに、あばた状の欠陥が発生した。

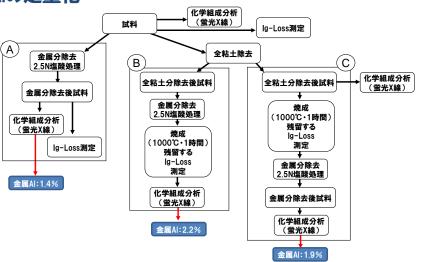
日本鋳造工学会 生型研究部会

12/28

金属AI管理のシリカプログラムへの展開 シリカプログラム分析フロー



金属AIの定量化



B処理方法による金属分中の金属AI測定結果 金属分中に含まれる金属アルミ量は最大2.2%となる

§福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

15/28

日本鋳造工学会 生型研究部会

16/28

ピンホール不良について

【デフケース】





加工後のザグリ面にピンホールが確認された

ピンホール不良について

金属分管理への展開

🧣 福島製鋼株式会社

あばたの発生しない金属AIの量 M-AIの含有量23% × 添加率0.2% = 0.046%

金属分中の金属AIは最大2.2%である。

あばたの発生しない金属分の量は
0.046% ÷ 2.2% = 2.1% ≒ 2.0%

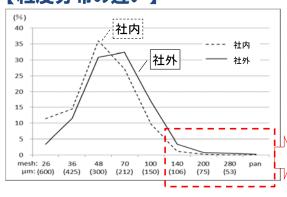
金属分代用特性値とし、2.0%以下で管理することにより、あばた不良を抑制している

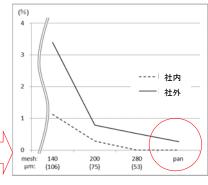
ピンホール不良についての考察

変化点について調査をしていたが社内で管理している項目では異常が確認できなかった。

一方、社外に依頼している粒度分布と比較した際、粒度に差があり、これに着目して調査実施した。

【粒度分布の違い】





🧣 福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

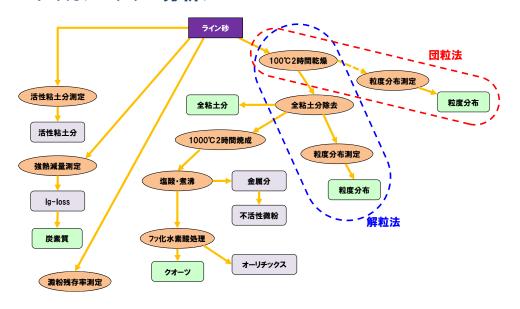
19/28

🔓 福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

20/28

シリカプログラム分析フロー



社内・社外の粒度分布の違いについて

粒度分布測定法

🧣 福島製鋼株式会社

~解粒法と団粒法について~

〈解粒法 :社外〉

砂の大きさ(粒度の分布)を見る。 粘度分を洗浄して測定する。

〈団粒法 :社内〉

鋳型の実態(ライン砂の粒度)を見る。

洗浄せず乾燥して測定する。砂のコーティング状態を見る。

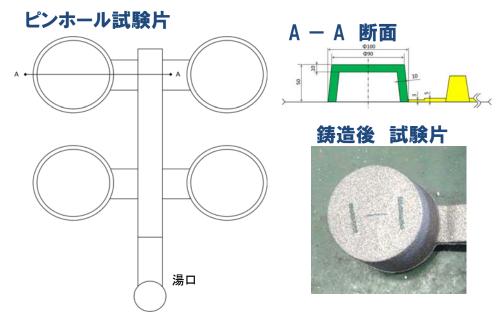
一般的には解粒法での測定であるが、社内測定は従来より団粒法で測定していた。

不具合について

団粒度では細かい粒度について解析がしきれず 微粉の増加に対する対応が遅れた

CBを安定させるため水分で調整することにより ピンホールが発生しやすい砂性状になっていたと 推測

試験片鋳込みによる検証



試験に使用した混練砂の性状について

No.	Mesh	14	18.5	26	36	48	70	100	140	200	280	Pan.	_ Mesh	AFS	JIS	
NO.	μm	(1180)	(850)	(600)	(425)	(300)	(212)	(150)	(106)	(75)	(53)		≥ 200		FNO	FN
٠	団粒	1.64	0.30	5.83	19.13	37.97	27.20	6.73	0.90	0.15	0.15	0.00	0.30	41.9	69.9	-
'	解粒	0.73	0.69	3.57	10.86	29.10	34.33	14.30	3.30	1.10	0.73	1.29	3.12	53.1	ı	92.5
2	団粒	3.20	0.53	5.33	17.87	36.40	28.53	6.94	0.93	0.13	0.14	0.00	0.27	41.7	69.9	-
2	解粒	0.55	0.41	3.59	10.64	29.14	34.72	14.18	3.40	1.16	0.87	1.34	3.37	53.7	ı	93.6
ω	団粒	2.14	0.25	4.79	17.41	37.07	29.51	7.41	1.01	0.28	0.13	0.00	0.41	42.8	71.7	-
3	解粒	1.24	0.88	3.55	10.61	28.96	34.04	13.75	3.37	1.33	0.93	1.34	3.60	53.4	ı	93.2
4	団粒	1.43	0.26	4.69	17.96	37.24	29.56	7.42	1.04	0.26	0.14	0.00	0.40	43.0	72.0	-
4	解粒	0.41	0.60	4.26	12.32	28.24	32.45	14.12	3.71	1.48	1.06	1.35	3.89	54.0	1	94.1

§ 福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

23/28

試験部品の確認

試験片の表面から1mm加工し加工面に検出された ピンホールの数をカウントし評価





§福島製鋼株式会社

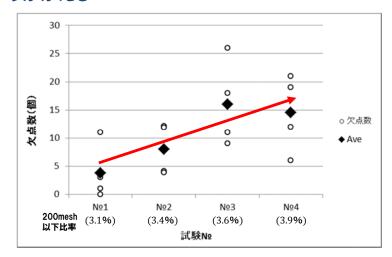
§福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

24/28

結果

微粉が多くなるにしたがいピンホールも増える傾向 がうかがえる



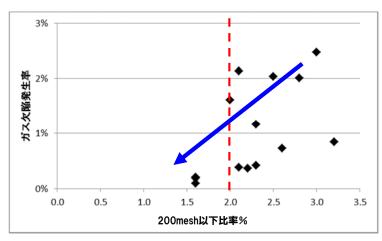
25/28

日本鋳造工学会 生型研究部会

26/28

検証結果からの不良の相関確認

回収砂200mesh以下比率 と ガス欠陥発生率との関係



200mesh以下が2.0%を境界に発生率が良化する

検査項目への展開

🧣 福島製鋼株式会社

🧣 福島製鋼株式会社

今回発生したピンホールについては粒度分布のとらえ方に問題があり微粉の管理が遅れてしまった。

粒度分布について、社内においては、解粒法と団粒 法とを両立させ、砂性状の安定化に努める

§福島製鋼株式会社

日本鋳造工学会 生型研究部会

27/28

日本鋳造工学会 生型研究部会

28/28

まとめ

あばた不良について

生型砂中に残留する金属分AIの影響についてあばた 不良への影響がわかった。

⇒ アルミの含有についてはシリカプログラムでは測 定困難なため、金属分を代用特性として管理

ピンホール不良について

粒度分布については、団粒法と解粒法で測定し、 細かい粒度(≦200µm)の推移を管理し、砂の安定 化を図っている。

最後に各種試験についてご指導、ご協力いただきました クニミネ工業(株)殿に感謝申し上げます。 **END**